

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 6年 3月 20日

事業所名 くる〜く

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点、改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○		可能な限り死角がないように、扉をしない等配慮している。利用者の人数をみて職員の配置を多くしている。
	2 職員の配置数は適切である	○		活動や利用者の人数によって、職員の配置を増やして対応している。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		絵カード用いたり、ホワイトボードを使う等構造化を心掛けている。玄関、デイルーム、トイレはバリアフリー化してある。
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		毎日利用前に掃除、玩具等消毒を行い清潔を保つようにしてる。活動によって、机の配置を変えたり、増やしたりと空間を変えている。
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○		ほぼ毎日社員参加のミーティングや、月1回職員全員参加の全体ミーティングを行っている。あと、日々のミーティングノートの活用にて全職員に周知するようにしている。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○	今年度も利用児童がいないため、保護者に対して事業所評価を実施していない。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○		法人のホームページで公開している。
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	○		発達支援アドバイザーの派遣を行っている。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		講師を招いて社内研修を行ったり、外部研修は出来る限り参加している。研修参加は社員中心だが、パート職員含む全職員の社内研修を1回実施することが出来た。
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		日々の児童の様子や、送迎時、面談で得た保護者の情報をもとに、個別支援計画に反映させ作成している。
	11 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		保護者に適宜、事業所独自のアセスメントシートを使って状況を把握している。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		「発達支援」は適切で出来ているが、「家族支援」、「地域支援」についてはまだ十分ではないので、今後できるよう心がけている。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		児童発達支援計画に沿った支援が行えるように、定期ミーティング、月1回の職員全員参加の全体ミーティング等で随時伝達を行い、情報共有を図っている。
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	○		担当職員が立案し、詳細は職員間で相談して決めている。社員中心で決めているので、今後はパート職員の意見も取り入れるようにしていく。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		曜日で固定されている活動もあるが、運動、創作、料理、外出、季節の行事など、様々な活動を行っている。利用者の要望を取り入れることもある。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		基本集団活動が中心だが、状況をみながら個別活動の時間も作るようにしている。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		定期ミーティングで送迎や活動内容など確認。また、各自ミーティングノート、送迎表、予定表を見て確認している。ただ、確認出来ないこともあり、なるべく伝達するようにする。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		定期ミーティングで振り返りを行っている。特記事項はミーティングノートに書いて情報共有している。送迎後に連絡事項は必ず報告している。

適切な支援の提供	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○	支援目標等を主観的な記録ではなく、客観的な記録をとるように心がけている。モニタリングなどで正しく記録できているか確認している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○	計画に基づいて、必ず半年に1回はモニタリングを行っている。利用者の状況に応じて、職員間で話し合い見直しの判断を行っている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○	児童発達支援管理責任者が参画している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	○	現在行っていないため、行えるよう検討していく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	○	現在、医療的ケアが必要な子どもの支援をしていない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	○	現在、医療的ケアが必要な子どもの支援をしていない。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	現在、利用者がいない等で情報共有と相互理解は図れていない。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	○	就学後の学校送迎時に、情報共有と相互理解を図っている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	○	発達支援アドバイザーの派遣で助言等受けている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	○	機会がなく、至っていない。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	○	市の社会福祉協議会が行っている運動会に参加している。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○	送迎時に日々の様子を伝えたり、自宅での様子を聞くようにしている。面談や個別支援計画更新時期の話合いなどで共通理解を図っている。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	○	現在ペアレント・トレーニング等の支援まで行っていない。今後検討していく。
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○	契約時に、契約書や重要事項説明書にて説明している。	
33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○	児童発達支援管理責任者が、支援内容を保護者に説明し同意を得ている。	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○	随時、送迎時や電話連絡などで保護者様からの相談は受けている。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	○	現在、父母の会や保護者会等は設けていない。必要の声があれば検討していく。
	36	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○	苦情・要望受付窓口を設置し、苦情解決責任者を配置している。相談などあった時は、相談・苦情報告書を作成し、職員間で情報共有している。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○	毎月の予定表と、詳しい内容のお知らせと一緒に配布している。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○	契約時に保護者様から、個人情報の同意書を頂いている。職員の意識が高まるように、ミーティング等で議題に挙げたり、個人情報保護の研修も社内で行っている。

保護者への説明責任等	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	○	障がい特性に応じて写真や絵カード、ホワイトボードなど使っている。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	○	現在、ボランティアの募集等は行っているが、事業所の行事が行えていない。今後行っていけるよう努める。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	○	現在マニュアルはあるが、まだ周知にまで至っていない。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○	定期的に消防署見学を行い、様々な避難体験を行っている。定期的に救命講習を受けている。施設内では半年に1回避難訓練を行っている。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○	契約時や、事業所独自のアセスメントシートで確認したり、面談や送迎時の時に確認したりしている。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	○	医師の指示書とまではいかないが、事前に保護者からアレルギーの有無は確認する。クッキングやおやつ提供時は注意している。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○	事例集の作成まで至っていないが、ミーティングで話した事例はミーティングノートに書き、事業所内で共有している。
46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	必ず外部の研修に、社員1名以上参加している。参加できない職員は、事業所内で伝達研修を行っている。	
47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	○	契約時にやむを得ない場合の説明を行っている。必要な場合には保護者に説明しご理解いただいた上で、計画に記載する。	